



謎の穴開き土器？

この柱は、自然に生えていた樹木の一部が土に埋もれてしまったものなのか、古代人がわざと埋めたものなのか、今のところ分かりません。しかし、発掘担当の話では、「自然の樹木が土に埋もれたものであれば、木の下の方に根っここの跡は確認できない」ということでした。樹木が埋もれている地層から判断すれば、旧石器時代までさかのぼれるということでしょう。ますます謎は深まるばかりです。もしかすると、旧石器時代の人がなんらかの目的で、わざわざ柱を立てたのかもしれない。

さらに、木と木をこすり合わせて火起こしにも挑戦しました。石器を使って古代人のように野菜や肉を切ってみると、けっこう切れ味が良いことに驚きます。それ

石器の作られ方とは？

町内の小・中学生も現場に行つて、具体的な話を聞いたり、古代人のように石器を使った料理づくりを体験しました。

さらに、木と木をこすり合わせて火起こしにも挑戦しました。石器を使って古代人のように野菜や肉を切ってみると、けっこう切れ味が良いことに驚きます。それ

さらに、木と木をこすり合わせて火起こしにも挑戦しました。石器を使って古代人のように野菜や肉を切ってみると、けっこう切れ味が良いことに驚きます。それ

3つ目は、沢山の穴の開いた土器が発見されたことです。いったいどのような土器を何に使ったのでしょうか。「現在であれば、何かを蒸すときに使う「こしき」という道具に使ったのではないかと推測されています。この穴開き土器も、今後研究が進めば何に使ったかがはっきりしてくると思います。



明安小学校・中田小学校合同見学会



金山小学校6年生の遺跡学習会

では、このような石器はどのようなように作られたのでしょうか。石器は、石と石を打ち合わせて加工されることはご存じの方が多いと思います。専門家の話によると、古代人は、石の性質をよく知っていたのではないかと想像されるそうです。石器の材料は、けつ岩、という固い石です。この石は、すどく割れるために、弓矢の先に付けたり、木の先に付けて槍として使つたと言われています。



旧石器時代の道具

多くの発見がありました。この発掘の結果については、近日中に中間報告会を開催する予定です。興味のある方はぜひ参加ください。

金山町の原始時代が見えてきた！

～中田地区の発掘作業が終了～



太郎水野2遺跡の全景

平成16年6月1日から11月19日まで、国道13号「主寝坂道路改築事業」の実施にとまねい、中田地域で大規模な遺跡の緊急発掘調査が行われました。

この調査は、道路改築事業の実施主体である国土交通省が、財団法人山形県埋蔵文化財センターに依頼したものです。

調査箇所は、全部で4箇所。総面積で約1万8千m²におよぶ大規模な発掘調査でした。具体的な発掘場所は、外沢地区の入り口付近（地坂台遺跡）、下中田の中田春木川と外沢川が合流する地点（下中田遺跡）、下中田の集落に大きくカーブしながら下り坂になる箇所（山林）太郎水野1遺跡・太郎水野2遺跡）です。

発掘結果から注目するもの

詳しい発掘結果は、現在埋蔵文化財センターで分析中ですが、特に今回の発掘から3つの注目すべき結果が出ています。

1つ目は、縄文時代の遺跡だと予想して発掘した結果、太郎水野2遺跡から、縄文時代よりもさ



謎の柱跡？

らに古い旧石器時代後期の石器が約50点ほど出てきたことです。埋蔵文化財センターの話では、今回のように旧石器時代の遺跡を調査することは、県内でもたいへん珍しいことだそうです。

縄文時代は、今から2千3百年前から1万2千年前までの時期ですが、旧石器時代後期は、1万2千年前から3万5千年前までの時期になります。この旧石器時代の石器については、金山町史で安沢遺跡から2点発見されたことが紹介されています。これからの分析が進むにつれて、今回発見された石器がいつの時代のものか、もつとはっきりしてくると思われる

2つ目は、同じ太郎水野2遺跡から、謎の柱が発見されたことです。